

令和2年第1回（定例）高砂市教育委員会 会議録

日時

令和2年1月30日午後5時00分

場所

高砂市役所西庁舎4階会議室

出席者

衣笠教育長、山名委員、吉田委員、神尾委員、布施委員

出席事務局職員

永安教育部長、阿部教育推進室長、赤松学校教育室長、横山学校教育室学校教育課長
北野教育推進室教育総務課長
伊森若者・青少年支援担当課長兼青少年センター所長

本日の会議に付した事件

議案

- 1 高砂市立幼稚園の廃止について

報告事項

- 1 第3期高砂市教育振興基本計画（案）について
- 2 学校の情報環境整備について
- 3 悩み相談シートの結果について
- 4 高砂市教育委員会事業後援承認一覧について

その他

- 1 2月行事予定について

議 事 議案 1 高砂市立幼稚園の廃止について

○事務局 (議案 1 について説明)

○教育長 この議案 1 について、原案どおり可決します。

議 事 報告事項 1 第 3 期高砂市教育振興基本計画(案)について

○事務局 (報告事項 1 について説明)

○委員 学力向上方策の充実における指標を説明してください。

○事務局 学力・学習状況調査の結果報告書の国語と算数・数学において、正答率 8 割以上の児童生徒の全国との比を現状とし、目標は、全国平均を上回りたいので増やしたいので 105 以上としました。同様に、正答率 4 割以下の児童生徒は全国平均を下回るよう設定しています。

○委員 この文章では理解するのは難しいと思います。

○事務局 小学校 6 年生の国語の現状が 68 で目標が 105、この数字だけを見ると大きくかけ離れているようなイメージを持たれるのですが、高砂市の小学校国語の回答率が 80%以上の子は 9.9%、全国は 14.5%です。その差を 5%と考えると、今年度 6 年生の被験者が 800 人弱ですので 40 人。それを 10 校で単純に平均すると 1 校につき 4 人になります。1 校につき 4 人は何とかやっ払いこうという、数字は大きいようではすけれども、そういう見方をさせていただくということをお願いしたいと思います。

○委員 正答率 8 割以上の児童生徒を増やすのは難しいと思いますが、授業の中でどのような取組を予定していますか。

○事務局 子供たちが主体的に、自分で考えたり話をしたりする活動が大切だと思います。できる子は、まだわかってない子に教えることでより理解が深まるでしょうし、さらにどうやったらいいのだろうと考えると思います。支援が必要な子については、できる子、達成している子と話をすることで気づきがより深まると考えます。また、難しい問題から易しい問題まで色々な学年の問題をリンク集として集めております。その子に合った教材を先生方に選んでいただけるような学習環境を整えている途中だと思っております。

○委員 一人一人に応じた勉強の仕方を、1 人の先生が授業で対応するというのは非常に難しいと思います。ただ、学校の先生がこの評価指標を見て、今言われた言葉を聞いたら悩んでしまうと思います。先生の人数を増やすことができない、ずっとそれができない、難しい状況ですので、ジレンマに陥って悩んでしまうと思います。

○委員 目標は 5 年計画で、目標に無理があると感じてしまうのではという気がしま

す。1年ごとの目標設定に向かってというほうがやりやすいと思います。また、国語が例に出ているのですが、国語を伸ばすのは非常に難しく、この目標設定では厳しいと思うので、もう一度見直していただきたいです。また、市が取り組んでいるのは5つの力を伸ばすことだと思っていて、このあたりをもっと前面に出していく。みんなが1つの目標にできる具体策として考えられる取り組みであると思いますので、もっと押し出していったらいいのではと思います。

○委員 5年後はこの105としても、2年目、3年目等の目標値を具体的に。これは基本計画だから、5年計画だけれども、2年目、3年目があっても別に構わないと思いますので。

○教育長 目標を設定するのも大事ですが、その目標を設定するだけではなくて、教育委員会も覚悟が必要だし、現場の先生方がやる気を持っていただくことも大事で、どう取り組んでいくかということを具体的に示していく。また、年度ごとの検証・評価もしていきながら、2024年の目標に近づけていくことを十分に意識していくことが大事ですというご意見をいただきました。それから、目標値を大変だから変えるということは、担当のほうからそうではないと、目標に向かって頑張るということをいただいていますので、これに向かってしっかりと取り組んでいくということでご承認いただきたいと思います。貴重なご意見ありがとうございました。また年度ごとの進捗も報告はさせていただきたいと思いますので、よろしく願います。あと、何かこの計画についてのご意見ありましたら願います。よろしいでしょうか。では、今後また改めて、写真等入ったものができましたらまたお届けしたいと思います。それでは、基本計画の案につきましては、承認していただいたということでお願います。

議 事 報告事項2 学校の情報環境整備について

○事務局 (報告事項2について説明)

○事務局 校内LAN無線AP設置の経費が変わっています。

○委員 中学校2年、3年のタブレット整備を前倒しで実施することは不可能ですか。前回ぜひ進めてほしいという要望は出していましたが。

○事務局 国のロードマップどおりとしています。

○委員 何か特別なお金をどこから持ってくるだとか、先取りができれば。中2、中3が一番有効に活用できる世代なので、何とかならないのかと思います。

○委員 第3期計画で学力を全国平均より上へという目標がありました。そういう目標を持っているのであれば、設備の面でも平均より上を行ってないかつじつまが合わないのではないかと思います。設備も平均以上整っているから内容もよくしましよと先生へ話ができるのではないかと思います。直接子供達に教える

のも触れ方を教えるのも全て先生ですので、まず先生方が納得して取り組んでくださらないと子供に影響します。

- 教育長 現場の雰囲気、状況はどうですか。
- 事務局 視察に行った小学校では、タブレットや教材提示装置も取り合いになっているという話は聞いています。今、ソフト面で子供たちが活用するドリル教材などについて、子供たちが扱いやすいもの、先生としてとつきやすいもの、そういうことについて先生方と話したりして、計画を作っているところです。
- 委員 実際にタブレットが手元にあれば現実的な考えが出来ると思いますが、手元がないことで期待が大きくなりすぎていると思います。確かに興味を持つと思うので、勉強に対して意欲は変わってくるかもしれませんが、すぐに学力が上がるわけではありませぬし、授業の中でタブレットを使用する比率はそこまで大きくないと思います。期待が大きいし何が出来るだろうということばかり考えて、きちんとした使い方のスケジュールができてないのではないかと感じてしまいます。
- 事務局 模造紙に自分達が考えたことをまとめて、それを発表するという授業をタブレットに置きかえて授業を展開するということから始めればどうかと考えています。段々慣れてくれば、使い方は自然に広がっていくと思います。
- 教育長 整備計画を国のロードマップよりも早くするほうが望ましいとお考えてますか。
- 事務局 1日中タブレットを使うということはまずあり得ないと思うので、使用しない時間にほかの学年に回すということもあり得るかなとは考えています。
- 教育長 LAN工事をしているので他学年で使えるという想定ですか。
- 事務局 はい。
- 教育長 まだ導入されてない中ではあるけれども、どういうことができるかきちんと持っておくということ、現場の声も受けとめていくこと、先生方のモチベーション、それらが大事であると。令和3年度に導入する中2、中3の分を前倒しにするところについては、教育委員会の思い、それから市長部局との調整も絡んでくるので、そこはこれからの課題として考えていく必要があります。タブレットについては、今のところ国のロードマップに沿った形でという案をお示ししておりますが、総合教育会議で委員の皆さんのご意見を出していただけたらと思います。報告事項2について、了承します。

議 事 報告事項3 悩み相談シートの結果について

- 事務局 (報告事項3について説明)
- 委員 中学校での認知件数が少ないのですが、年齢が大きくなれば、隠されてしまういじめが出てくると思います。数字が少ないのは、隠されたいじめをピックアップ

ップできていないのではと考えます。先日、インフルエンザで学級閉鎖があった時に、給食が多く残ったので、出席している子に大盛りにしたそうです。それはきっかけで3時間目になってきたらおなかが痛くて早退するようになった、というケースがありました。給食の残渣を減らすということはノルマのように言わないほうがいいと思います。また、先生の態度についても、アンケートが必要だと思います。先生のささいな言葉が子供にとっていじめや不登校の原因になっていることがあると思います。悩み相談シートの中に先生の言葉のというのはありますか。

○委員 ありますね。友達、家族、先生。

○事務局 平成30年度の公立学校児童生徒等の問題行動調査報告より、いじめ認知件が全国では1,000人比で、小学校が66.5件、中学校が31.2件です。兵庫県においては、小学校が40.5件、中学校が32.8件です。高砂市では小学校で91.6件、中学校が41.8件ですので、全国、兵庫県を上回っていますので、積極的認知という部分ではなされていると考えています。

○委員 全国的に、中学校のいじめ件数はもっとあるのではないかと思います。小学校はあるのに中学校になったら減るとするのは気になります。

○事務局 ご指摘のとおり、中学校になりますと小学校に比べて極端に減っておりますので、見えていないいじめというのはゼロではないと思います。ネット内でのいじめも見えにくく、今後も広く情報を入手して対応をしていきたいと考えています。

○委員 中学生になると、全部を正直には言わなくなります。中学生の子供たちに聞くと、いじめ相談シートには書かないと言う子も結構います。子供の成長過程で大人に色々言わなくなる時期というのはあると思うので、それも考えておいたほうがいいのではないかと思います。また、大人への信頼関係が小学生のときと違って、「言ってもどうせ何もしてくれない」とか「言われても向こうも困る」とか言います。だから、そういう年代の子供たちだということも考えておいたほうがいいのかなと。正直に全部言うのではなくて、色々秘めたものは持っているのだろうという思いで見えてあげて、見えていない部分というのも意識していただきたいです。

○教育長 ご意見を受けとめ、積極的ないじめの認知、早期に対応し解決すること望ましいと思います。

○事務局 悩み相談シートの「いま、あなたが悩んでいることや困っていることについて教えてください」という設問の中に、「友達、家族、先生、勉強や運動」とあり、先生からの何げない一言に傷ついたというのも書けるようにしてあります。

○委員 この悩み相談シートの内容について、書いた児童に先生が直接尋ねて、誰のことを書いているかが知れ渡ったという事案がありました。このようなことがあ

ったら、悩み相談シートには氏名を出しますし、担任の先生が回収しますので、担任の先生のことを書くことはできません。悩み相談シートの扱い方について検討してほしいと思います。

○教育長 改善すべき課題があるようにも思います。先生の言動に悩んでいる子が書けるよう今後中身と扱いについては検討したいということで、よろしくお願ひします。報告事項3について、了承します。

○事務局 今年の成人式についての報告を1点させていただきます。今年1月13日に成人式を文化会館において開催いたしました。令和元年12月1日現在で高砂市に住民票を有する成人が977人です。新成人の式典への出席者が男330人、女303人の633人で、参加率としては64.8%となりました。

○委員 市長の式辞や来賓の祝辞などの式典に入る前に、号令をかけ起立させると雰囲気が変わると思いますので検討してください。

○事務局 確かに成人式の運営委員会の反省会で、市長の式辞や議長の祝辞の際、客席がざわついているという意見は出ています。検討させていただきます。

議 事 報告事項4 高砂市教育委員会事業後援承認一覧について

○事務局 (報告事項4について説明)

○委員 石造五輪塔竣工披露説明会は、教育委員会後援事業ですか。

○事務局 石造五輪塔は県指定文化財ですので、地元と県、市で修復しました。地域に知ってもらうため、説明会を実施することになり、後援を認めました。

○教育長 保留分を除く、報告事項4については了承します。保留分の説明をお願いします。

○事務局 先月の教育委員会で保留している事業について、主催者に、内容的には後援を承認するに当たって特に問題はないと考えるが、個人の名前を入れた事業の名称を使うことに関しては承認基準に抵触するので、事業の名称変更が可能であるかたずねましたが、変更はできないとの回答でした。改めて教育委員会に諮り、承認できないことがある旨を伝えました。検討中ですが、生涯学習の観点から、音楽家や美術家などの芸術家に関して、若手を支援するという意味で、若手が個人の名前を出しての個展や演奏会に後援を承認するという必要になってくるのではと以前から気にはなっています。承認する基準が現状見つけられてないので、今の段階で個人の名前があるものを承認するのは難しいのですが、今後何らかの基準を設けたいと考えております。それも含め、ご意見をお聞かせください。

○委員 基準に則っていくしかないと思います。

○委員 規約がある限りはそれに従ってやらざるを得ないと思います。

○事務局 「特定の団体・個人の宣伝又は売名を目的とするもの」は承認しないとしてい

ます。厳密に言うと、個人の名前があるからだめとまでは言い切れないのですが、誤解を招くという点で抵触するのかなと判断しています。

○委員 個人のリサイタルを教育委員会が後援するのには疑問があります。このリサイタルは無料ですか。

○事務局 有料です。

○委員 それだと尚更、後援をすることで集客等の色々な付加価値がつくと思いますし、後援がなければ話が進まないといったことでもないと思います。また、アーティストを育てるというのは、市ではなく第三セクター的な形で基金をつくって補助すればいいと思います。市が個人名であっても後援するのはいいと思いますが、教育委員会としては、個人名のついたものを後援するのは駄目だと思います。他市を調べていただき、判断させてもらいたいです。今回は無理があると思います。

○委員 市が後援するのと教育委員会が後援するというのは趣旨が違います。教育委員会の後援は、見たもの聞いたものに対して教育的価値があるという立場に立っての後援で、出演者などを育てるための後援ではないというところをご理解いただいた上で、例えば楽器を子供たちや市の皆さんに紹介したいというコンサートに名称が変わるのであれば、それは教育的な価値があると捉えることができますが、個人名を出し、個人が今までの身につけてきた芸術的成果を披露するコンサートであれば、教育委員会が後援するところではありません。そのところを説明し、理解していただければと思います。

○教育長 この申請の基準につきましては今後の課題としてあります。保留の事業につきましては、楽器の普及ということを意識した形で、中身については問題ないということはあるものの、規約上、難しいというのが委員全員のご意見です。

議 事 その他 2月行事予定について

○事務局 (その他2について説明)

○委員 学力向上対策会議の資料を公表するスケジュールは決まっていないのですか。

○事務局 今年は少し早くに出すような予定をしていたのですが、非常に申しわけありません、遅れています。

○委員 他市が11月に公表しています。11月の教育委員会で案を見せていただいていますので、事前に見せていただければ、11月に出すこともできると思います。

○教育長 厳しいご意見と温かい激励をお寄せいただきました。では、これで第1回定例の教育委員会を閉会いたします。

令和2年1月30日 午後7時30分 教育長会議の閉会を宣告
